



臨床支援ツールにふれてみよう The Cochrane Library (コクラン・ライブラリー)

長谷川智史

I. はじめに

2012年9月8日(土)に行われた近畿病院図書室協議会第35回勉強会において「臨床支援ツールにふれてみよう」でお話したコクラン・ライブラリーの概要とその主要なコンテンツであるコクランレビューの特長をご紹介します。

II. コクラン・ライブラリーの概要

コクラン・ライブラリーはWiley社から提供されている、診療の効果について信頼度の高いエビデンスを得ることのできる臨床支援ツールです。コクラン・ライブラリーは6つのデータベースで構成されており、比較臨床試験の文献や方法論の研究、医療技術評価や医療の経済的評価などさまざまな種類の情報を有していますが、その中でもコクラン・ライブラリーの代名詞といえるのがコクランレビューです。

III. コクランレビュー

1. コクランレビューとは

コクランレビューとはコクラン・ライブラリーの中核をなすデータベースであるCDSR; Cochrane Database of Systematic Reviewに収録されており、その数は2012年8月時点で約7,400件です。徹底的に主観、バイアス(偏り)を排した客観的なエビデンスを提供するために作成され、EBMにおいてきわめて信頼度が高いエビデンスであるという評価を得ています。

コクランレビューは網羅的にランダム化比較試験の文献を収集し、その中から信頼できるものを選び、メタアナリシスで統計的、定量的にそれらの結果を統合し作成されます。

2. ランダム化比較試験

ランダム化比較試験とは臨床試験の研究デザインの一つで、介入の効果を公平に比較する上で有効な手法として広く受け入れられています。「ランダム化」は「無作為化」とも言われますが、被験者を処置群と比較対照群に割り付けるランダム化は、一方の被験者群に年齢、性別、症状の重さなどの偏りが出ないように作為的に行われるものです。

3. メタアナリシス

コクランレビューはできるだけバイアスの影響を受ける余地の少ないランダム化比較試験からさらに結果の精度を高めるため、複数のランダム化比較試験を統計的に統合・解析するメタアナリシスを行い、定量的な結論を得られるように作成されています。

4. コクランレビューの作成過程

コクランレビューはコクラン共同計画の診療科ごとに分かれた53のレビューグループによって作成されています。コクラン共同計画とは1992年に英国の国民保健サービス(NHS)の一環として始まった医療評価プロジェクトです。コクランレビューはそれぞれのレビューグループに配置される編集者やコーディネーターの助言を受けた執筆者により作成されますが、品質を維持向上させるために「Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions」という標

準ガイドブックに沿ってレビューを作成します。

5. コクランレビューの作成手順

コクランレビューは以下のようなステップを経て作成されています。完成するレビューの信頼性を確保するため、それぞれのステップは定められたルールにもとづいて行われます。なお、CDSR; Cochrane Database of Systematic Reviews で検索できる収録文献はレビューとプロトコルに区別されますが、結果が出て完成したものがレビューで、研究の背景、目的、データ収集方針や分析手法は決まっています。進行中の段階のものがプロトコルです。

(1) テーマの設定

まずレビューグループがリサーチクエスチョンを提示してコクランレビューの作成が始まります。

(2) 関連研究を漏れなく収集

テーマに関連するランダム化比較試験の文献情報は網羅的に収集され Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) という書誌データベースに登録されます。文献の収集は MEDLINE や EMBASE といったデータベースを検索するだけでなく、計画的なハンドサーチ (文字通り雑誌を 1 ページずつ手作業

で調べます) によって行われています。また、出版された論文だけを収集していると有意な結果が得られた試験の文献に偏ってしまう (出版バイアス) ことが懸念されるため未発表の試験についても研究者に問い合わせデータを収集するなど徹底した網羅性が特徴です。

(3) 各研究の妥当性を評価

収集されたランダム化比較試験の文献は妥当性が批判的に評価され水準を満たしたものだけに選りすぐられます。

(4) アブストラクトフォームに要約

ふるいにかけてきたランダム化比較試験の情報はアブストラクトフォーム (構造化抄録) に要約されます。

(5) 統計学的解析 (メタアナリシス)

複数のランダム化比較試験は、それらをメタアナリシスにより統計的に統合されし、分析の結果はオッズ比グラフで表示されます。複雑に見えますがレビューの全体像を簡潔に把握することのできる非常に有用なツールです。

(6) 結果の解釈

レビューの結果にはエビデンスの強さやコスト、予想される効果やマイナス点などに関する考察がまとめられます (図 1)。

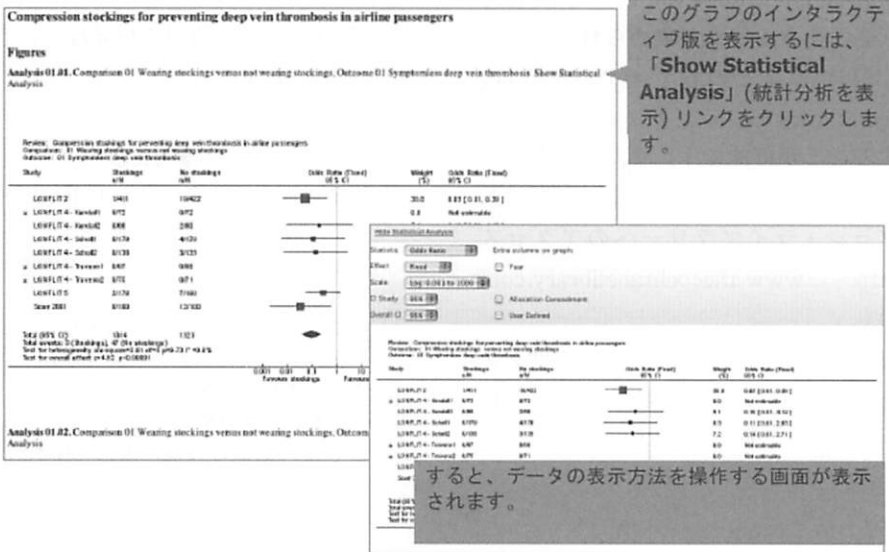


図 1 システマティックレビュー (オッズ比グラフ)

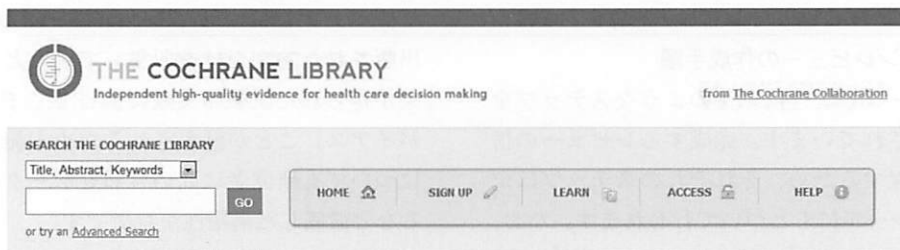


図2 The Cochrane Library 利用トップ画面

(7) 編集と定期的更新

コクランレビューは作成後も定期的に更新され最新の状態に維持されます。

IV. コクラン・ライブラリーの利用

コクラン・ライブラリーのうち、コクランレビューを収録している CDSR; Cochrane Database of Systematic Reviews やランダム化比較試験の可能性のある論文が集められたデータベース CENTRAL などの各データベースは、Wiley Online Library のプラットフォームから無料で検索することが可能です。また、コクランレビューは抄録まで無料で閲覧することができます。コクラン・ライブラリーへのアクセス URL は <http://www.thecochranelibrary.com> です (図2)。

詳しい利用方法はワイリー・ジャパンのウェブサイトから提供されている日本語クイックレファレンスガイドをご覧ください¹⁾。

V. まとめ

コクランレビューは非常に厳密な手順とルールにしたがって作成されるため、検索すれば何でも見つかるというようなものではありませんが、求めている臨床上の疑問に合致するコクランレビューが見つかった場合は非常に有益な情報となります。ほかの臨床支援ツールとコクラン・ライブラリーの大きな違いはその網羅性と厳密性に裏付けられた情報の信頼度の高さであると言えるでしょう。

参考文献

- 1) ワイリー・ジャパン Wiley-JAPAN. EBM プロダクト. [引用 2013-01-19]. <http://www.wiley.co.jp/electronic/ebmproduct.html>
- 2) 津谷喜一郎, 山崎茂明, 坂巻弘之. EBM のための情報戦略 エビデンスをつくる, つたえる, つかう. 東京: 中外医学社; 2000.
- 3) 山本和利. 図書館員のための EBM 入門 知っておきたい知識と技能. 東京: 日本医学図書館協会; 2001.